

令和6年度 普通会計決算の状況

歳入

3,501億円

【歳入の内訳】

カッコ内は構成比

■一般財源	1,960億円(56.0%)
(使い道が特定されず、どのような経費にも充てられる財源)	
①都区財政調整交付金	1,163億円(33.2%)
②特別区税	538億円(15.4%)
③その他一般財源	260億円(7.4%)
■特定財源	1,541億円(44.0%)
(使い道が限定された財源)	
①国庫・都支出金	1,074億円(30.6%)
②繰入金	264億円(7.5%)
③繰越金	81億円(2.3%)
④使用料	44億円(1.2%)
⑤地方債	0億円(0.0%)
⑥その他の特定財源	78億円(2.2%)

歳出

3,374億円

【歳出の内訳】(目的別歳出)

カッコ内は構成比

1 民生費	1,930億円(57.2%)
(1) 社会福祉費	51,567(百万円)
(2) 老人福祉費	25,764(百万円)
(3) 児童福祉費	66,148(百万円)
(4) 生活保護費	49,563(百万円)
(5) 災害救助費	4(百万円)
2 教育費	577億円(17.1%)
3 総務費	283億円(8.4%)
4 衛生費	249億円(7.4%)
5 土木費	224億円(6.6%)
6 労働費・商工費	55億円(1.6%)
7 公債費	30億円(0.9%)
8 消防費	15億円(0.5%)
9 議会費	9億円(0.3%)
10 農林水産費	1億円(0.0%)

※ どのような目的に支出したかを示しています。

なお、人件費はそれぞれの費目に含まれます。

注) 金額等は、表示単位未満の端数調整をしていないため、加減乗除した数値が一致しない場合があります。

令和6年度 普通会計決算の状況

- ・歳入総額(3,501億円)は、前年度比+186億円、5.6%の増でした。
 - ・歳出総額(3,374億円)は、前年度比+202億円、6.4%の増でした。
 - ・形式収支(歳入から歳出を差し引いた残り)から、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は125億円でした。
 - ・実質収支比率は、6.5%(前年度より0.2ポイント減少)で、望ましいとされる割合を上回りました。
 - ・経常収支比率は79.7%(前年度より1.1ポイント増加)で、適正水準とされる80%以内を維持しました。
 - ・歳入の33.2%(1,163億円)を、都区財政調整交付金が占めています。
 - ・歳出の51.5%(1,739億円)が義務的経費(人件費+扶助費+公債費)です。
 - ・生活保護費や保育園の運営費などの扶助費は、前年度比で24億円増加し、歳出全体の38.5%(1,299億円)を占めています。
 - ・区の借金にあたる特別区債の現在高は、前年度比で28億円減少し、161億円となりました。
 - ・区の預貯金にあたる基金の現在高総額は、前年度比で41億円減少し、1,817億円となりました。
 - ・健全化判断比率は、いずれの数値も健全性を維持しています。
(財政状況の悪化による自治体の財政破綻を未然に防ぎ、適切な是正措置が取れるよう公表を義務付けられた指標です)
- ▶詳しくは、「令和6年度 普通会計決算のあらまし」をご覧ください。